

令和4年度 畜産研究所酪農研究部における取り組み

	研究課題	研究期間	研究概要
継続	胚段階でのゲノム選抜法の実用化研究	R2～6	遺伝能力の生前診断を目的に、受精卵の一部の細胞からSNP情報を得、高能力牛の選抜及び不良遺伝子の排除等を行った受精卵を移植し、効率的に牛の改良を行う技術の実用化を目指す。また、生前診断(ゲノミック評価値)と実際の産子の能力が一致するかの検証も行う。
継続	乳用牛の周産期における潜在性疾患の早期発見技術の開発	R3～5	乳汁中の脂肪酸組成から乳牛の栄養状態を推定することにより、潜在性の段階で早期に異常を発見することで、周産期疾患による経済的損失を低減する技術を開発し、普及する。
継続	牛飼養管理の精密化・省力化を目的としたセンシング技術の開発	H31～R5	ルーメン内環境を簡易にモニタリングできる高精度なルーメン内留置型のマルチセンサを作製し、そのデータから牛の状態を知らせるセンシングシステムを開発する。
新規	飼料用稲等のロールペールサイレージにおけるカビ低減化に関する研究	R4～R6	飼料用稲等カビの発生原因とされる収穫、保管作業においてカビ低減に向けた技術を明確化し、コントラクターが生産する飼料の高品質化を図る。
継続	家畜性判別胚供給事業	H20～	所内の高能力乳用牛から受精卵を採取し、雌雄判別した雌胚を譲渡する。 県内農家の乳用牛から採取された雌胚を性判別する。
継続	優良品種選定普及促進 ～耕畜連携自給飼料増産推進事業～	H8～	自給飼料の生産性向上を図るには、地域の自然条件や利用目的に適応した優良な品種を利用することが極めて重要である。岐阜県下において、普及を促進する必要があると認められる品種の適応性を調査し、県奨励品種選定の基礎資料とする。今年度は、ケンタッキーブルーグラス3品種、メドウフェスク3品種、リードカナリーグラス1品種の比較試験を実施する。

	その他	期間	概要
継続	飼料分析	S61～	酪農家及び肉用牛農家の飼料生産貯蔵技術及び飼料給与技術を支援するため飼料分析を実施する。